

Q&A たつの市防災計画の「災害に強いまちづくり」について問う



赤木 和雄 議員
KAZUO AKAGI



近年、集中豪雨、線状降水帯といった尋常ではない雨の降り方が日本列島を脅かしている。本市の防災計画「大切な命と地域を守る」取組が重要であるとの考えから以下を問う

問 排水機場、アンダーパスなど排水機の点検管理は適時行われているか。

答 出水期の点検は月2回、非出水期は月1回の動作確認に加え、定期的に専門業者による点検・整備を実施している。

問 排水能力の十分でない道路側溝、堆積土砂の多い河川の対処について、各自治会と情報共有を行い、適切に維持管理を行う必要があると考えるがどうか。

答 日常の道路パトロールや自治会からの情報提供により、状況を把握し、必要に応じて清掃や浚渫を実施し、機能維持に努めている。

県が起債許可団体に転落、本市への影響について問う

問 県の所管する道路、河川等の公共事業、県の補助事業等、本市への影響について問う。

答 西播磨市町長会、同議長会を通じて、本市に関連する県事業の穴栗新宮線大鳥踏切以北の宮内バイパス。龍野中央幹線4車線化に向けた設計、本龍野富永線道路拡幅等が遅滞なく進められるよう要望活動を実施した。

国の進める副首都計画について問う

問 政府の進める副首都計画に兵庫県と神戸市に連携を求め、播磨科学公園都市を準拠点とした、副首都構想に名乗りを上げてもらえるよう、県と神戸市に働きかけを行っては如何か。

答 兵庫県、神戸市においては、手を挙げる予定はないと言及している。今後、国において選定に向けた具体的要件や基本方針が示されるなか、県及び神戸市が指定要件を満たすのか。また、申請する意思があるか等、動向を注視し本市の対応を検討する。

その他の質問事項

●事業継続計画（BCP）の取組について。

Q&A ICT・データを活用した鳥獣被害対策 について



柏原 要 議員
KANAME KASHIHARA



近年、市内各地域でイノシシやシカによる農作物被害が続き、多くの農業者や地域住民から深刻な声が寄せられている。一方で、捕獲従事者の高齢化や担い手不足も進んでおり、これまでの経験や技術にICTやデータを加え、効率的で持続可能な鳥獣被害対策を進める必要がある

① 鳥獣被害の現状について

問 令和5年度から7年度までのシカ・イノシシによる農作物被害額、被害面積、捕獲頭数の推移と、現在の被害状況を市としてどのように評価しているか。

答 農作物被害額、被害面積は令和4年度から減少傾向にあるが、捕獲頭数は横ばいで、依然としてシカ、イノシシによる被害は深刻である。被害面積、出没状況などを総合的に捉え、対策の効果を検証していく。

② ICT・GISを活用した対策について

問 通信型センサーカメラ、捕獲通知装置、ICT箱かな等を活用し、GIS等で被害・目撃・捕獲場所を二元的に地図上で可視化し、分析する仕組みを構築する考えはないか。

答 ICTを活用し、限られた人員でより効果的に対策を行うことは、今後ますます重要である。GIS等による仕組みの構築は、捕獲従事者の負担軽減や効率的な捕獲につながるかと考えており、先進事例等を参考に調査・研究していく。

③ 鳥獣被害防止計画の「スマート対策」の位置付けについて

問 ICTを活用した捕獲、センサーカメラによる出没把握、GISによる被害・捕獲情報の一元管理、捕獲従事者の負担軽減等を計画に明確に位置付けるべきではないか。

答 ICTとデータの活用は極めて有効であると認識している。本市の鳥獣被害対策には、効であると判断した場合には、次期の鳥獣被害防止計画内に明記し、具体的な施策として位置付けることを検討していく。